

即ち上下左右の順序に讀めり、然れ共又は *buyur* なる語は可汗の名には非ずして下に述ぶるが如く回鶻の一姓の名なるやも知る可らず、果して然らば之を

*buyur uirur kül bilgä t(ä)ngri Yayan*

とも讀め得べし、別に又

*t(ä)ngri kül bilgä buyur uirur Yayan*

と讀むも可なるが如くなれど、回鶻及び突厥可汗の徽號に於て、其の初に *t(ä)ngri* (登里) の語を有するものは、其の次に (天) 「より得たる」即ち *(tä)ngri-dä bulnis* (登里囉沒密施) の語を有するを常とすると共に、現在の治世の可汗に對しては *t(ä)ngri Yayan* (天可汗) と稱するが普通なれば、恐らく此等兩語は分離せしめざるを以て當れりとすべし。

さらに此の中に見ゆる *buyur* なる語は可汗の名なるが如く、*Le Coq* 氏が高昌の廢墟より得たる摩尼教文書中にも *uirur buyur Yan* として見え、此の可汗が羊の歳三人の摩尼教高僧 (*mayistak*) を任命する爲に高昌に來りて、*mužak* (慕闐) と協議したりしことを記せり、*Le Coq* 氏は此の *buyur* なる語を可汗の名とし、唐書回鶻傳の牟羽可汗、即ち *Schlegel* 氏が古音に還して *Bugu Kagan* (七五九—七八〇年) と讀みたる可汗に相當するものと考へ、牟羽可汗は摩尼教を回鶻に輸入したる人なれば (回鶻碑文の記事に據りたるなり)、此の比定は當を得たるものなりとし、然も唐書の牟羽は *buyur* を寫せるものとしては、語尾に *r* なる喉音を缺きたるを怪しみ、之につきては支那學者の研究に待つべきを述べたり、此の文書に見ゆる *buyur* と、上に掲げたる貨幣の上に現はるゝ